

## 第 21 回人口・社会統計部会において出された意見等に対する回答

勤務形態の項目において、「短時間勤務」を「同じ事業所で働くフルタイムの人に比べ」と「同じ事業所」に限定する必要はないのではないか。

(回答)

ご指摘を踏まえ、調査票での説明文を「短時間勤務とは フルタイムの人に比べ 1 週間のあらかじめ決められた労働時間が短い勤務( 1 日 6 時間 1 日 8 時間で週 3 日など)をいいます」に修正する。

年次有給休暇の「付与の有無」を把握する必要はないか。

(回答)

ご指摘を踏まえ、調査票のスペース等も勘案しつつ、年次有給休暇が付与されていない人と年次有給休暇が付与されているが取得していない人が混在しないように工夫をすることとしたい。

【現行案】

13 年次有給休暇の取得日数						
-この年間に取得した年次有給休暇の日数を記入してください -病気休暇・産後休暇などは除きます						
0	1	6	11	16	21	その他 記入していない人が 1年間に複数ある 記入していない 記入していない
日	5	10	15	20	以上	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	



【修正案】

13 年次有給休暇の取得日数						
-年次有給休暇がある場合は そのうちこの年間に取得した年次有給休暇の日数を記入してください -病気休暇・産後休暇などは除きます -年次有給休暇がない場合は 年次有給休暇がないに記入してください						
年次有給休暇がある場合のこの1年間の取得日数						年次有給休暇がない
0	1	6	11	16	21	その他 記入していない人が 1年間に複数ある 記入していない 記入していない
日	5	10	15	20	以上	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

1週間の希望就業時間の項目における時間階級について、有業者の区分にそろえるべきではないか。

(回答)

無業者の希望就業時間の時間階級については、ご指摘のとおり、有業者に階級区分を合わせて修正する。

有業者について、ご指摘のとおり、説明文を無業者に合わせ「希望する時間だけ働けるとすれば 1週間に何時間ぐらい働きたいかについて記入してください。」に修正する。

また、ご指摘を踏まえ、有業者で就業を希望しない人をとらえるために、選択肢に「その他(就業を希望しないなど)」を追加することとしたい。

【現行案】

17 希望する1週間の就業時間

-1週間に何時間ぐらい働きたいかについて記入してください

15時間未満	15?29時間	30?34時間	35?39時間	40?48時間	49?59時間	60時間以上
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【修正案】

17 希望する1週間の就業時間

-希望する時間だけ働けるとすれば 1週間に何時間ぐらい働きたいかについて記入してください

15時間未満	15?29時間	30?34時間	35?39時間	40?48時間	49?59時間	60時間以上	その他(就業を希望しないなど)
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

<参考> 平成19年就業構造基本調査 有業者に占める就業休止希望者割合

	有業者数(人)		割合(%)
	総数	うち就業休止希望者	/
総数	65,977,500	2,356,900	3.6
15～34歳	19,602,800	378,000	1.9
35～59歳	35,333,400	783,700	2.2
60歳以上	11,041,200	1,195,300	10.8

注) は「あなたはこの仕事を今後も続けますか」の設問に対し、「仕事をすっかりやめてしまいたい」と回答した者

健康状態について、仕事上の支障と連動した設問ではなく、一般的な健康状態を把握する設問にすべきではないか。その上で、無業者についても尋ねてはどうか。

(回答)

先行研究において主観的な健康状態と客観的な設問から得られる健康状態がかなりの割合で一致するとご示唆をいただいたこと、また、健康上問題があったとしても仕事に影響が出ないように働かざるを得ないような人が、この選択肢では、正確にとらえられないとご指摘をいただいたことから、仕事への影響と関連付けた選択肢ではなく、単に健康状態を段階的に区分する選択肢とすることとしたい。

ただし、調査票のスペース及び設問の順序など設計上の問題から、無業者も含めて健康状態を尋ねることは困難であり、今回調査では、あくまで、「基本計画」で指摘されている労働時間をとらえた統計をより有効に活用できる環境の整備という目的も勘案し、有業者に限定することとしたい。

【現行案】

19 ぶだんの健康状態  
ぶだんの健康状態について もっとも当てはまる状態を記入してください

仕事上の問題はない	健康上の問題がある
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	仕事上の問題がない
	<input type="radio"/>
	仕事に少し影響がある(健康上の問題はない)
	<input type="radio"/>
	仕事に大きく影響がある(休業中など)
	<input type="radio"/>



【修正案】

19 ぶだんの健康状態  
ぶだんの健康状態について もっとも当てはまる状態を記入してください

良い	まあ良い	あまり良くない	悪い
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>